

# ‘甘平’のマルチ栽培

‘甘平’の平成25年産栽培面積は約140ha、生産量は1,300tが見込まれている。生産量の増加に伴い品質のバラつきが指摘されていることから、マルチ栽培による品質向上対策について検討した。

## 1 降雨と果実品質

9月上旬から10月中旬までの積算降水量と1月30日の糖度の関係を見ると負の相関があり、降雨の多い年は糖度が低くなる傾向が見られる(図1)。

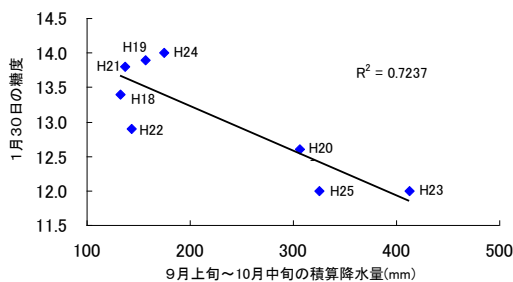


図1 9月から10月の積算降水量と糖度

向が見られる(図1)。

## 2 マルチの敷設時期

9月の降雨を遮断することで糖度の増加が見込まれるが、裂果を助長する恐れがあるため、9月下旬にマルチを敷設し、その後水分ストレスがかかるようにする。



写真1 白色透湿性シートによるマルチ栽培

## 3 マルチ敷設と果実品質

マルチを敷設することによって収穫時の糖度は露地栽培に比べ1.5程度高くなるが、クエン酸含量には差が見られない(図2)。また、完全着色果の割合も高くなる(図3)。

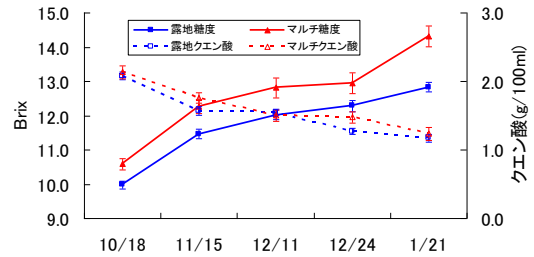


図2 露地栽培とマルチ栽培の果実品質(2013年産)

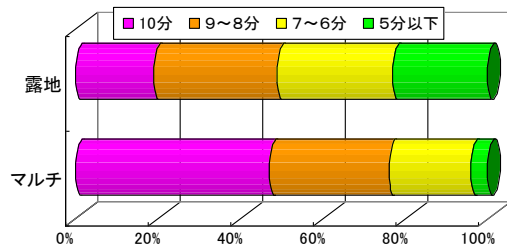


図3 露地栽培とマルチ栽培の収穫時の着色歩合(2013年産)

## 5 マルチ敷設の注意点

過度の乾燥はユズ肌症や酸高になりやすいことから、点滴かん水チューブなどかん水が行える施設も同時に設置する。また、果実の着果部位によっても果実品質に差があり、日当たりが悪い樹冠内部の果実は品質が劣ることから、摘果時に落としておく等の対策も必要である(表1)。

地上高	着色歩合	Brix	クエン酸 g/100ml	果梗緑 %
50cm以下	8.0	12.2	1.21	45.5
60~100	8.4	13.0	1.21	47.6
110~150	9.1	13.0	1.12	29.7
160以上	9.1	13.2	1.16	38.5

(施設土壌班 主任研究員 重松幸典)